

恩返し③ 地域の「安心」づくりの観点から

問 県内居住の外国人への支援について

- ①日本語の習得に関する支援策の効果と課題について
- ②外国人県民からの要望等を直接的に把握し、県政に反映させる仕組みについて

答 清流の国推進部長

①日本語の習得に関する支援策の効果と課題について

県では、外国人県民の日本語の習得を支援するため、日本語教室の開設・運営支援、日本語教育人材の育成、「やさしい日本語」の普及促進に取り組んできた。今年6月には「岐阜県日本語学習支援センター」を開設して支援を推進していく。

今後は、日本語教室の空白地域の解消に向けた教室の新規開設や、更なる人材の育成及び日本語習得の支援の情報が必要な方に届くように、市町村や外国人県民を雇用する企業の協力を得て積極的な広報を推進していく。

②外国人県民からの要望等を直接的に把握し、県政に反映させる仕組みについて

県では、「岐阜県在住外国人相談センター」を開設し、併せて外国人県民会議や若者ガヤガヤ会議等も定期的に開催して外国人県民の要望等の把握を行っている。さらに、定期的に「外国人県民実態調査」の実施により、外国人県民の要望やニーズを的確に把握して、県の施策に反映している。

マッキーから一言

私は、これまでの「労働力供給者としての外国人県民」というよりも、地域社会を構成する「生活者としての外国人県民」に対する日本語習得による日頃の地域や職場における円滑なコミュニケーションが下地となる多文化共生社会の実現の必要性を痛感するものです。地元の美濃加茂市でも、外国人の定住化が進んでいます。外国人が県内で安心して暮らせる環境を整備し、安定した生活を送れることが、地域のコミュニティ、多文化共生への発展へとつながり、ひいては地域経済、県の経済発展へと繋がっていきます。外国人の本市人口に占める割合が県内でもトップクラスに高い自治体の喫緊の課題として、ぜひとも県がこれまで以上に外国人への支援に取り組んでいくよう今後ともいそう働きかけていきます。

「知事」…事を知る…どんな事を？

昨年12月の一般質問では、私の県政世論調査の一般質問に対する知事答弁が終わり、引き続き私の別の一般質問が始まる直前の議場の壇上で、「知事とは知る事と書きます。知事には、県政世論調査により、県民の日頃の思いや生活状況ぶりをしっかり知っていただき、県政に着実に反映させていただきたいものです。」とコメントさせていただきました。新しい知事が就任しました。

県民の気持ちを代弁して発した私のこのコメントの趣旨も織り込まれた、通算20年の長距離駅伝走者とも言うべき前知事が掛けていた緑地に「岐阜県政」と書かれたタスキを、しっかりと託させていただきたいものです。



恩返し③ 地域の「安心」づくりの観点から

岐阜県議会には、執行部から提案のあった議案を付託して審議する常任委員会として、総務、企画経済、厚生環境、農林、土木、教育警察の6つの委員会があります。私は、その中で、教育警察委員会に属しています。この委員会の名称が表すように、教育委員会関係と警察本部関係を所管する委員会です。当委員会所管の事業で、今年度予算に関わる地元の美濃加茂市内に関するものとして、老朽校舎の改築として、県立加茂高等学校が改築工事(全体事業費25億8,200万円)を実施中です。



竣工予定(令和7年12月)イメージパース

因みに、当校は、学科改編を令和7年度に実施し、探求的な学びを積極的に取り入れた、文理融合した進学型の新しい普通科に改編されます。

●学科改編の内容(県立加茂高等学校)

| 現在            |      | 改編後                            |
|---------------|------|--------------------------------|
| 学年制           |      | 単位制<br>文理探求科<br>(普通科、理数科は募集停止) |
| 普通科           | 240名 |                                |
| 学年制           |      |                                |
| 理数科           | 40名  |                                |
| ※数字は令和6年度入学定員 |      |                                |

活動報告写真

恩返し① 地域の「元気」づくりの観点から



堂上蜂屋柿の知事報告

